

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ（第5回）

議事要旨

平成 16 年 12 月 13 日（月） 18:30～21:00

釧路地方合同庁舎 4 階 共用第三会議室

【出席者（敬称略）】

<委員（所属）>

- ・ 清水信彦（個人）
- ・ 新庄久志（釧路国際ウェットランドセンター主幹）
- ・ 滝川喜三（個人）
- ・ 永瀬知志（個人）
- ・ 普久原涼太（釧路市民活動センター「わっと」）
- ・ 山口 功（釧路湿原ボランティアレンジャーの会）

<再生普及小委員会（所属）>

- ・ 高橋忠一（北海道教育大学釧路校 助教授）
- ・ 百瀬和邦（財団法人山階鳥類研究所 研究員）

<関係市町村（出席者）>

- ・ 釧路町（産業経済課／小原勝也）
- ・ 釧路市（環境部環境政策課課長補佐／木村俊宏、自然保護担当／司口幸治）
- ・ 鶴居村（振興観光課／土居孝之）

<釧路湿原再生協議会事務局（出席者）>

- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部（治水課流域計画官／大東淳一）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長／池田敏邦）
- ・ 北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課自然環境係長／後藤達彦、同主任／藤村朗子）

<ワーキンググループ事務局>

- ・ 環境省東北海道地区自然保護事務所
- ・ 財団法人北海道環境財団

【議事概要】

<事務局> 第 5 回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画 WG と表記」）を開催する。審議に入る前に環境省北海道地区環境対策調査官事務所からお知らせがあるのでお聞き願いたい。

<環境省北海道地区環境対策調査官事務所> 環境省では、全国 9 箇所ある環境対策調査官事務所ごとに環境情報や環境教育の拠点となる地方環境パートナーシッププラザを設置する

予定である。これに先立ち地元がどのような施設を希望しているかについてご意見を聞く「環境情報拠点の在り方についての意見交換会」を開催する。北海道地区では既に9月に札幌で開催済みで、今年度1月17日に釧路、1月25日に旭川において開催する予定であり、本行動計画WGの皆様にも積極的なご参加をお願いしたい。

〈事務局〉それでは次に新しく本WGのメンバーになった4名を紹介する《清水氏、滝川氏、永瀬氏、普久原氏を紹介》。

〈新メンバー〉自己紹介《自己紹介内容は省略》

〈事務局〉それでは本日の議事に入る。ここからの進行は、座長にお任せする。

〈座長〉市民参加・環境教育の推進に関する提言（以下「10の提言」と表記）に関する行動計画の検討も後半に入ってきている。有意義な行動計画作成のために積極的な議論を期待する。事務局から本日の進め方について説明を求める。

〈事務局〉今日は、2テーブルに分かれて提言に基づいた具体的な取り組みをご提案いただく。1つのテーブルは提言の3及び4について、もう一方のテーブルは提言の5及び6について検討をお願いしたい。考え方については、配布資料（「提言に基づいた取組みをご検討ください」）を参照願いたい。

***** ワークショップ開始 *****

〈座長〉これから、検討グループごとに発表していただきたい。

※ グループ発表に使った模造紙はエクセルファイルを参照。

提言3 自然再生の仕組みや動きを広める

- 自然再生に興味を持っている人が少ない。関心層を如何に広げるかが課題である。湿原と関係のない企画などにも湿原へ触れる（知る）機会を作り、対象者を拡大していく。さまざまな主体へ売り込むためのキット（紙芝居やパンフレットなど）作成を活動団体をお願いする。費用は少額なので行政での負担か寄付金をお願いする。また、興味を持ってもらえるようなるべく短いキャッチフレーズを公募かプロジェクトチームの作業により作成してはどうか。
- 自然再生のことを子ども達によく知ってもらうために、学校教育の素材として採り上げてもらう。それも算数や英語など直接関係のないようなところでも採り上げてもらえるよう教育の専門家・研究会に協力を仰いでどうか。

提言4 自然再生について情報公開と合意形成を進める

- 湿原保護・再生についての意識調査をしてはどうか。方法は、アンケートや電話などが考えられ、費用はマスコミの協賛をお願いする。この意識調査は釧路川流域の上流部、下流部、それぞれの住民の意識が違うものであることが汲み取れる他、双方の住民同志の間違った認識をなくし、顔の見える関係を作り出す方向に働くはずである。
- 流域住民同志の意見を聞く、直接対話の機会を設けてみてはどうか。費用は会場費ぐらいなので無料で用意してもらい、地域を越えた交流ができるようにする。
- 湿原に対する意識を変えてもらうために湿原の価値を見直してもらうことが必要である。

また、湿原の重要性に対する共通認識を持つために、インパクトのある情報によって伝える。湿原が好きで移住してきた人々の調査を行い発表したり、釧路湿原とともに生きる人々の生き様を映画化してはどうか。例えば、湿原が好きで移住してきた青年を主人公にした映画を作り、全国に釧路湿原の重要性を訴える。費用は寄付金等で賄う

- 合意形成を進めるためにも、もっと釧路湿原自然再生協議会（以下「協議会」と表記）のメンバーが勉強をしてレベルアップしないと建設的な議論にならない。

提言 5 自然再生に地域・市民の参加を促す

- 釧路湿原域以外の市民にも参加を促すためにツールを用意して参加を促す。東京など都市に住む市民の方が湿原への関心度は高いことも多い。
- 学校の総合学習などで父兄の参加も呼びかける。
- 小さい子どもを持つ母親などこれまで参加できなかった層に対しても参加してもらえようような受入れ体制を用意して、広く呼びかける。
- イベントとしては、サケ稚魚の放流、ドングリ拾い、1泊以上のキャンプなどが考えられる。
- 北海道教育大学釧路校環境教育情報センターにも参加をお願いする。
- 自然再生や保全活動などに参加したい人からの問合せ・相談窓口を設ける。
- ホームステイの協力者へ呼びかけ、海外の方の参加も促してはどうか。
- これらのことは、行事への参加者が多様化していくメリットもある。
- 比較的時間に余裕がある年配層に語り部等として参加してもらおう。
- 運営資金は、義務教育費などの活用ができないか。

提言 6 自然再生への幅広い支援・協力を求める

- ここでは資金的な協力的に絞って議論を行った。
- 釧路湿原と何らかの関係にある企業やホテル、交通機関に協力金の拠出を願い、「私たちは自然再生に協力しています」という文言を営業活動に使ってもらおう。また、それによって得た利益の一部を自然再生のために還元していただく。
- 霧多布湿原ファンクラブのように釧路湿原ファンクラブを創設する。
- 航空会社に対し、釧路空港に着陸するまえに釧路湿原の上空を旋回してもらおう。
- 駅、バス停などアクセスの要所で釧路湿原の様子をモニターで映し出すために、JR北海道やバス会社に協力を求める。
- チャリティーパーティーを行う。
- 湿原近くのゴルフ場で行われるコンペなどから一部寄付をいただく。

〈座長〉 これらの発表に対して何か意見はないか。

〈委員〉 協力をしていただき団体・企業などに対し、協議会のホームページでの宣伝を許可してはどうか。

〈座長〉 ちょうどホームページの話題が出たので、事務局で作成中のホームページをご紹介します。事務局からの説明を求めます。

〈事務局〉 《プロジェクターを使用しての説明》このホームページは主にさまざまな取組みや団

体、人、イベント情報などを紹介することで構成されている。まだ作りきれていない部分はあるが、できるだけ早い時期に公開したい。

〈座長〉他に意見はないか。なければ今後の予定について事務局から説明を求める。

〈事務局〉本日で10の提言のうち9つまでの検討が終わった。次回は提言10「人・施設・地域のネットワークをつくる」の検討をお願いする。それが終了した時点で、これまで検討した9つの提言を整理したものを用意するので、補足等ないか再度検討してもらう。その上で、行動計画作成に至る背景・行動計画の目的・行動計画作成の経過などを含めた形の、具体的な行動計画素案を作成する。

素案の中には、すでに行事として行われているものや、これから実行することが可能な行事も含め、取組みやそのねらい、実施者なども記載して、再生普及小委員会に諮る予定である。ひとつの提言に対して最低ひとつは実施可能な行動計画として取りまとめたいと考えている。

その後再生普及小委員会に了解を得て、年度末を目処に広く一般に情報公開し、参加・協力していただける団体などから具体的な提案を出してもらう。情報公開と募集の期間は1ヶ月ぐらいを予定している。それから再度整理し、行動計画として取りまとめる予定である。

〈座長〉次回WGの日程について事務局から連絡をお願いする。

〈事務局〉次回は、平成17年2月1日（火）18:30～同場所で開催する。

〈座長〉その他連絡事項はないか。

〈事務局〉先日11月29日に釧路市観光振興課の呼びかけで釧路市湿原展望台のリニューアルについて意見交換会があった。今月中に意見を取りまとめ素案を発表する予定とのことである。また、リニューアルとは別にトイレや外壁の改修を行う予定とのこと。

〈座長〉他にないか。なければ進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉本日も真剣な議論に感謝する。これで第5回行動計画WGを終了する。

以上